

# 江古田新聴

EKODA SHINNCHO  
町のかわら版

発行所 江古田新聞社  
江古田新聴 編集事務局  
TEL 03-3954-2241  
FAX 03-3951-7416  
ekoda.shinbun@gmail.com  
印刷所 株式会社朝日プリンテック  
平成25年7月15日・第31号  
奇数月15日発行 発行部数14,500部

**朝日新聞** 江古田新聴を  
応援します!!

ASA 江古田	練馬区羽沢 2-1-6	☎03-3991-5908
ASA 小竹向原	練馬区小竹町 1-21-15	☎03-3974-6846
ASA 豊玉	中野区江原町 2-20-20	☎03-3950-3061
ASA 平和台	練馬区平和台 4-7-23	☎03-3933-1040

協力 ASA

## 江古田でホタルに出会えた夜 ほうたるや 江古田の庭に 飛び交へり



小さい生き物や山野草を愛する優しい横林ご夫妻

12年前から自宅の庭にビオトープを造り、ホタルを育てているお宅があると聞き伺いました。豊玉の横林寛助さんのお宅です。季節の木々や草花に出迎えられて、庭に入ると、二つの小川に出会います。

源氏蛭用の流れの速い小川（長さ10m）と平家蛭用の流れの弱い小川（長さ5m）。清らかな水をたたえた川底には、「カワニナ」が息を吐いています。ホタルの幼虫は、カワニナを餌に成長しますが、カワニナはホタルと同様に、飼育が難しいことでも知られています。小川の中にはホタルの飼育に有効な骨端と白御影石が入れているそうです。

川の水を常に「飲むよう清潔に保つ」という細心の水质管理もなされています。個人宅でここまでされるには、ご本人の情熱とご家族の皆さんの理解と協力が大きいこと

3年前、福島原発事故を知った翌日、すぐに小川をビニールフィルムで覆ったという横林邸のホタルもその年は、例年になく少なすぎたそうです。ホタルは、自然界以外の放射線に非常に敏感で、ほんの少し（毎時0.5マイクロシーベルト）の放射線を浴びるだけで発光細胞と反射細胞が破壊され、その再生機能は極めて低いといえます。

それでも、都内の殆どのホタル愛好家が、ホタルを失う中で、今年も幻想的な輝きで江古田の夜を、癒してくれたこのホタルは工学博士・山口大学客員教授である横林寛助さんの経験と知識に守られた「奇跡のホタル」な

を感じることが出来ました。そして「今年3・11からホタルを守る」は雌の源氏蛭が7匹程確認できたので、来年が楽しみです」と、うれしそうに話して下さいました。

今年また江古田に  
孵る蛭かな

ホタル鑑賞会

### ホタルの一生

ホタルの寿命は7～10日です。成虫になったホタルは、昼はじっと葉っぱの上でその露、すなわち水だけを飲み、夜になると、多くの雄のホタルは発光しながら、飛び立ち、相手の雌を探します。あの幻想的な光の乱舞がこれです。



源氏蛭のオスとメス      ホタルの光の舞

雌は川岸の苔に産卵、卵は一カ月ほどで幼虫になり、川中で、カワニナを食べ一年近く生活します。そして、冬を越し春、4月～5月の末に幼虫は上陸、一か月ほど土の中でサナギになり、孵化（ふか）して成虫になるのです。



カワニナ      自宅の庭のサユリ

「螢火に、遠きを想う」  
江古田の夜」  
掲載の三句は当口いらした小竹俳句会の澤野さんの作です。